

この二月末、久下君から会誌第二号に載せる原稿の依頼文が届いた。勤めは果たさねばなるまいと覚悟はしたものの、なかなか手が付かず、頭の隅に溝が掛かったまま徒に時は流れていくばかり。三月末の締切日が迫ってきたので、テーマをあれこれ思案していたところ、久下君

音楽



小川 茂久
(楽友会名誉会長)

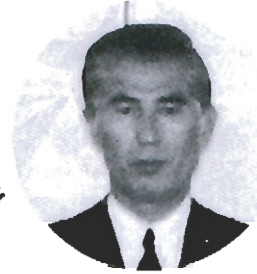
から電話がかかる。なにか申し訳なきような声で小文の督促、お公家さんのような端正な彼の容貌が目につかんできて、こちらまで申し訳なくなる始末、期日までは必ず書き上げる約束をして、受話器を下ろす。どうもおかしいなと思ったので、改めて依頼状を見ると締切日は三月二十日、すでに四日経っていた。催促は当り前で、月末はわたしの間違っていたと思込み、まことにお粗末千萬なはなした。久下さん、ご心配をお掛けして、ご免なさい。

このように、慌て者のうえ思ひ込みが強い質のわたしは、調べもせずに、「音楽」は英語のミュージックにあたる和製漢字で明治時代のはじめに作られたものだと思っていた。このたび、念の為、手元の

小漢和辞典にあたりと、歴とした漢語国語辞典をみると、八世紀末の『続日本紀』からの引用例が出ています。そこで、古い英和辞典を引きたくなつたので、明大の図書館に向向く。書庫に慶応三年(1867年)、横浜で出版された「ポン(あのローマ字綴りで知られた)・和英・英和語林集成」と天保元年(1830年)、パタヒア(ジャカルタのオランダ領時代の呼称)で発行されたW・H・メドハースト「英和・和英単語集」が在り、両書ともMusicを音楽と訳してある。これだけでもわたしの無知蒙昧は歴然、辞書は有り難いものだが、持っていないも使わないのは、まさに宝の持ち腐れだ。今更ながら自戒の念強し。

(平成六年三月二十七日)

楽友会の運営にあたり



幹事長 神田 篤身
(S40年卒・DX)

昨年3月に総会を開催し、新生OB会「明治大学楽友会」がスタート致しました。会則の改正、新組織、役員も承認され、執行部の責任者として、1年間運営にあたってまいりました。

「総会開催」の他、「会員名簿の発行」「会誌・楽友の発行」を行ないましたが、幅広い年代にわたり、本当に「活動する楽友会」を目指したいと思います。

会員の皆さんには「年会費」を頂きましたが、これも毎年、少額ずつ徴収させて戴くことそのものを基本的な活動と考えております。

これからは、50年代以降の卒業の会員の皆さんにも、是非、積極的に参加して戴き皆さんのご意見も運営に反映させていきたいと思ひます。

今年は「会誌・楽友No.2」「新会員名簿及び名簿改訂版」の発行を中心に活動する計画です。

また、6月24～26日の「和泉祭」に合わせ、「幹事会を開催」(6月25日予定)し、現役学生との交流も図りたいと思ひます。

尚、併せて、6年度の「年会費用の振込用紙」を同封致しましたが、運営の資源となりますので、是非、ご理解とご協力を重ねてお願い致します。

相続の相談・会社の設立

清谷卓司税理士事務所

〒233 横浜市港南区日野中央三丁目42番5号
電話 045(831)8325 FAX 045(831)3546